4 取組事例紹介

01 鳴海製陶株式会社本社（NARUMI）

働き手の減少への危機感から両立支援へ、フレキシブルな勤務時間制度の導入

所 在 地：名古屋市
業　　種：窯業、陶磁器製造
従業員数：単体271名（グループ801名）

■基本的な考え方

ブランドミッション（企業の使命）である「くらしの中に上質でしあわせな時間をつくり、みなさまを笑顔にする」を実現できる労働環境として、治療と仕事の両立や働き方改革にもこの考え方を織り込み、大切にしている。

■両立を支援するようになったきっかけ

治療をしながら働く人が増えているとともに、離職がしやすい時代になり、働き手の減少に危機感があった。また、当社の健康診断の有所見率は、平均値を若干上回っており、そのような状況に対応していくことがきっかけとなった。

■取組内容

○体制づくり

産業保健スタッフ3名の他に、衛生管理者、健康保険組合委員、非常勤産業医、総括安全衛生管理者・健康保険組合理事長（兼任）により体制を整えている。

○短時間勤務社員制度

1週間の所定労働時間を16時間以上30時間未満とした。その範囲であれば、6時間×5日、8時間×3日などと自由に日数や時間数を決められる。対象などについて、頻かく決めず運用ベースで検討することで、多様性の時代に合った制度として整備した。

○年次積立有給休暇

失効した有給休暇の積立分が、30日を上限として、傷病時において利用可能となる。

両立者（右から3人目）、管理部門長、健康管理担当の皆様

○取組での配慮・工夫（具体的事例等）

- 本人とのコミュニケーションが一番大切。同性の衛生管理者と面談する、本人と親しい社員から聞いてもらう等、個別に対応している。
- 先天性の脳静脈瘤により言語や記憶障がいを懸念される従業員からメールのやり取りをチェックしてほしいと要望があり、2名で対応している。
- 厚生労働省のガイドラインを参考に復帰プランを作っている。定型を作ると帰られてしまうので、各従業員に応じたものにしている。
- 通院のしやすさ等を考え、配置への配慮をしている。

両立者の声 *Real Voice*

乳がん手術のため2週間休んだ後に復職。2年半後、乳房再建で1か月休暇を取得しました。

休暇前は、職かに負荷をかけてしまうことに葛藤と不安がありましたが、スケジュールを立てて仕事を進めてもらえたことで、安心して休むことができました。

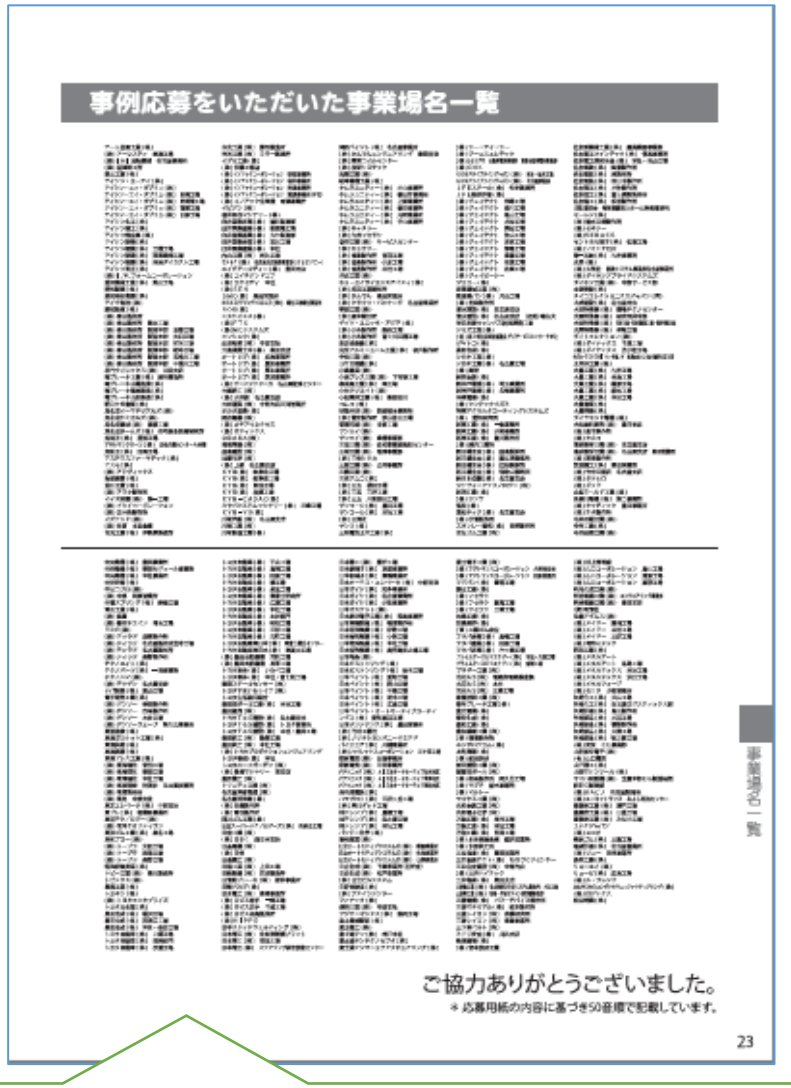
重要なのは、仕事を自分だけが知っている状況にせず、クラウド等に整理整頓しておくことだと思います。逆に、他の誰かが突然会社に来られない状況になっても対応できます。

両立者としてのモットーは「あきらめないこと」です。いつも会社の人、世の中の人が幸せでありますようにと、そういう思いを持てば、社内も世の中も変わってくるのではないかと思っています。

11 | 治療と仕事の両立支援

取組事例の掲載イメージ

引用元：愛知県「治療と仕事の両立支援　取組事例集」



事例応募をいただいた事業場名一覧

ご協力ありがとうございました。

＊応募用紙の内容に基づき50音順で記載しています。

23

事例応募先一覧

取組事業場一覧の掲載イメージ

引用元：愛知労働局　緑十字展「未来の確かさパネル展」展示パンフレット